



京都 祇園祭

〈ユネスコ無形文化遺産〉

町衆文化極まる
京の粋が華やかに巡行

GION MATSURI FESTIVAL
— UNESCO Intangible Cultural Heritage —

※写真はイメージです



有料観覧席のご案内
(全席指定、パンフレット、観覧記念付)

- 前祭 山鉾巡行: 令和6年7月17日(水)
御池通の河原町通から新町通の間に設置
 - 後祭 山鉾巡行: 令和6年7月24日(水)
御池通の寺町通から河原町通の間及び烏丸通から高倉通の間
- ※雨天決行

詳しくはこちら



Gion Matsuri Festival Procession Viewing Seat Tickets
(reserved seating with a pamphlet) for July 17 and 24: Oike-dori street.

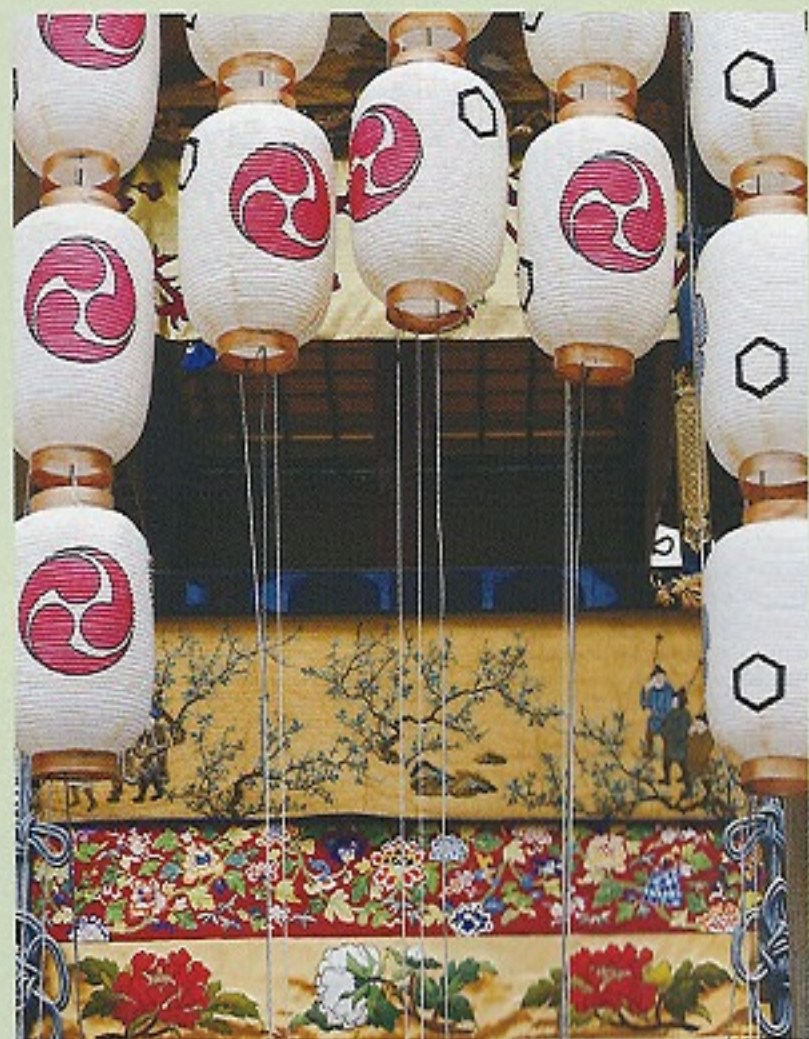
*Tickets are not refundable. We apologize if tickets are sold out.

祇園祭とは

祭の概略 八坂神社の祭で、毎年7月1日（吉符入）から31日（疫神社夏越祭）まで、1ヶ月にわたっておこなわれます。

一般には、17日（前祭・山鉾巡行と神幸祭）と24日（後祭・山鉾巡行と還幸祭）、その宵山が広く知られていますが、実に多彩な祭事が行われています。

祭の性格は、単に神社や氏子達だけのものではなく、現在では京都市全体の祭りとして繰り広げられています。



祭の歴史 今から約1150年前の清和天皇の貞観11年（869）に、京洛に疫病が流行し、庶民の間に病人、死人が多数出ました。

これは、牛頭天王（ごずてんのう、すさののみこと素戔鳴尊ともいわれている。）の祟（たた）りであるとして、鎮めるためにお祀りした祇園社（八坂神社の前身で、祭神は素戔鳴尊）を信仰し、病魔退散を祈願したといえます。

その方法は、日本全国の国の数に準じて66本の矛をつくらせ、それを神泉苑（中京区御池通大宮）に送り、悪疫を封じ込む御霊会（こりょうえ）をおこなったのが始まりであると伝えられています。

その後、祇園社の興隆とともに、“祇園御霊会”とよばれ、この名が略されて単に祇園会とよばれるようになりました。はじめのころは、疫病流行の時だけ不定期に行われましたが、円融天皇の天禄元年（970）からは、毎年6月14日に行われるようになりました。

その間、保元、平治の乱に一時絶え、足利時代に再興、足利将軍、夫人らが観覧したことが記録に残っています。

しかし、応仁、文明の乱に京都は焼野原と化して折角の祇園会の興隆に一頓挫をきたしましたが、すでに町衆の手に支配されていた祇園会に対する熱情は容易に屈せず、大乱の約30年程のち、明応9年（1500）6月には再び山鉾26基が巡行したと伝えられています。これらが契機となり、山鉾は町衆の手によって創意がこらされ、内容外観ともに豪華、絢爛なものとなりました。

永正元年（1504）6月には後柏原天皇もこの祇園会を観覧していますが、当時の町衆の信仰と勢力は次第に大きくなり、天文2年（1533）一向一揆に際して室町幕府は神事停止を命じましたが、“神事無之共、山鉾渡し度し”と申し出るほど町衆の山鉾存続への熱意が高まってきました。

鉾が現在のような形になり、豪華な飾りをつけるようになったのは、桃山時代から江戸時代にかけて貿易がおこり、町衆階級が勃興して舶来のゴブラン織や西陣織などが競って用いられるようになってからです。

このように、この祭は1000年の伝統を誇っており、再三中断、再興をかさねて京都の歴史とともに歩んできたのです。

祭の規模 日本三大祭のひとつにあげられており、その歴史の長いこと、祭事が1ヶ月にわたって繰り広げられるという大規模なものであることでひろく知られています。

また山鉾行事は、昭和54年、文化財保護法により、国の重要無形民俗文化財に指定されたほか、平成21年には国連教育科学文化機関（ユネスコ）の無形文化遺産に登録されました。さらに、平成26年には祭を古来の形に戻そうと、後祭の巡行が復興しました。

17日（前祭）と24日（後祭）におこなわれる山鉾巡行はこの祭のハイライトです。そして、これらの山鉾は、いずれも美しいゴブラン織、綴錦、西陣織等の美術品で飾られた豪華なものです。

また、最も大きな鉾は、重さが12トン（約3,200貫）、高さ26m、車輪の直径2m、これを曳く人40人を要します。



祇園祭の主な行事

吉符入 (7月1~18日) 神事始めの意味で各山鉾町において、町内関係者が本年の祇園祭に関する諸事打合せをします。

くじ取り式 (7月2日) 山鉾巡行の順番をくじによってきめる式。

お迎え提灯 (7月10日) 午後5時頃から神輿を迎えるため、趣向をこらした各種の提灯をもって行列します。

神輿洗 (7月10日) 午後8時頃、神輿3基のうち中御座の神輿をかつぎだし、四条大橋まで運び、鴨川の水で祓い清めます。

前祭 鉾建・山建 (7月10日~14日) 各町では巡行の山鉾が収蔵庫から出されて組立てられます。鉾の組立ては伝統の手法でおこない3日間を要します。

長刀鉾稚児社参 (7月13日) 長刀鉾にのる稚児が、午前11時八坂神社へ参詣します。

前祭 宵山 (7月14日~7月16日) 各山鉾では、夜は提灯が幾十となく点灯され、祇園囃子がにぎやかに奏でられます。

前祭 山鉾巡行 (7月17日) 午前9時 四条烏丸出発

神幸祭 (7月17日) 3基の神輿が四条御旅所にとどまります。

後祭 鉾建・山建 (7月18日~7月21日)

後祭 宵山 (7月21日~7月23日)

後祭 山鉾巡行 (7月24日) 午前9時30分 烏丸御池出発

花傘巡行 (7月24日) 午前9時30分
下京中学校成徳学舎出発

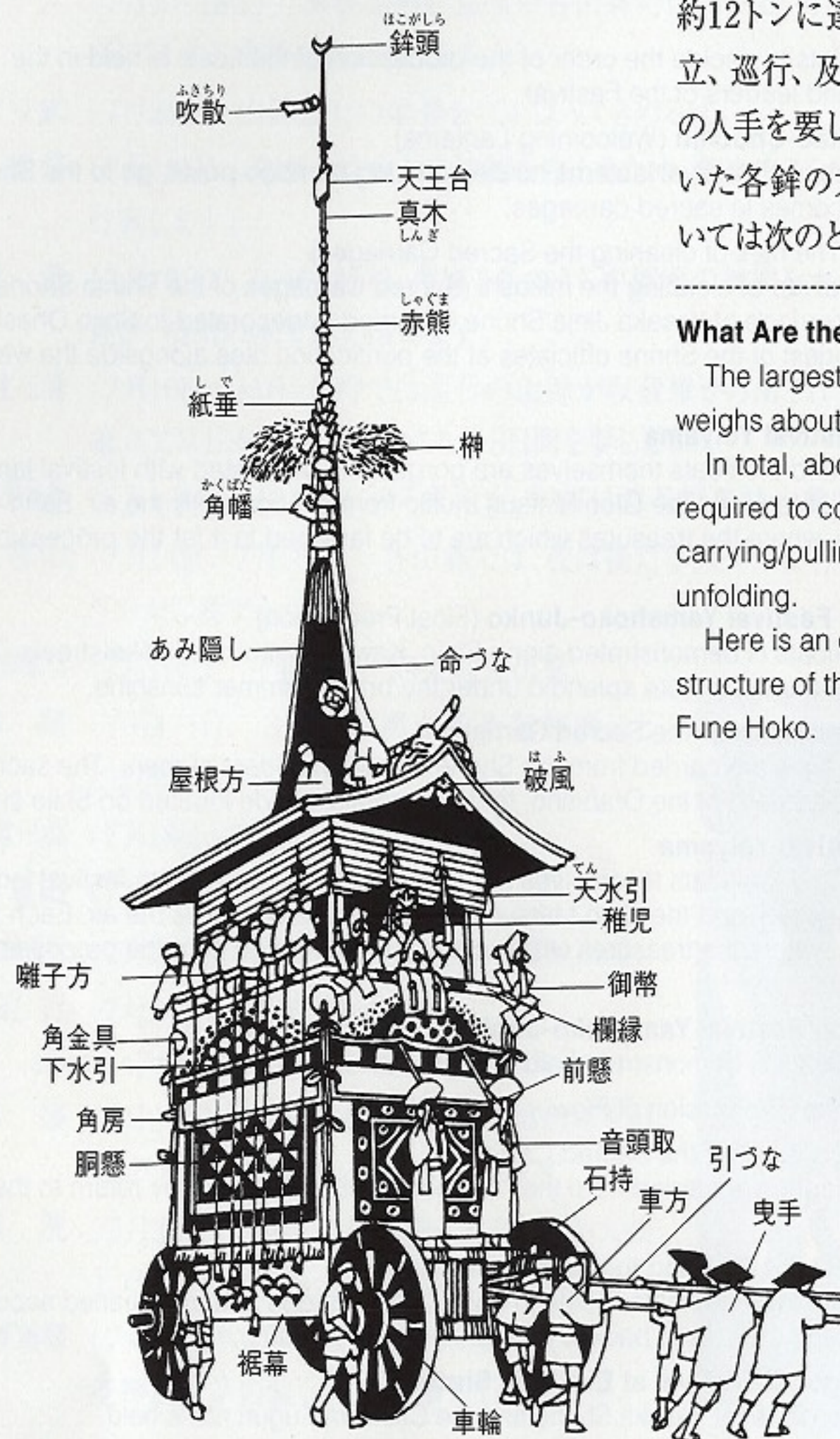
還幸祭 (7月24日) 3基の神輿が四条の御旅所を出て、氏子町内をまわり神社へかえります。

神輿洗 (7月28日) 10日の神輿洗と同様、四条大橋上で祓いきよめ、午後8時頃神社へかえります。

疫神社夏越祭 (7月31日) 午前10時 八坂神社境内の疫神社で茅の輪くぐりの神事が行われます。



鉾と山の解説



巡行する鉾のうちで最大のものは、約12トンに達します。また、これの組立、巡行、及び解体には延約180人もの人手を要します。船鉾・大船鉾を除いた各鉾の大体の大きさと構造については次のとおりです。

What Are the Hoko and Yama Floats?

The largest float in the procession weighs about 12 tons.

In total, about 180 people are required to complete the construction, carrying/pulling in the procession, and unfolding.

Here is an outline of the size and structure of the floats, apart from the Fune Hoko.

鉾・曳山

「重量」約12トン(約3,200貫)

「高さ」地上から鉾頭迄約25m

地上から屋根迄約8m

「車輪」直径約1.9m前後

「屋根」長さ約4.5m 巾約3.5m前後

「鉾胴」長さ約3.5m 巾約3m

「石持」長さ約6m余

「囃子舞台」8㎡～10㎡

「曳手」鉾の巡行に当り綱を曳く役 40人～50人

「音頭取」曳子と車の操作の上に立つ指揮者2人

(辻を曲る時のみ4人)

「屋根方」電線等の障害を調整する役4人

「囃子方」祇園囃子を演奏する

「車方」鉾の舵をとる役

Hoko Float / Hiki Yama Float

Weight: About 12 tons

Height: About 25 meters, from the ground to the top of the float; About 8 meters, from the ground to the roof

Wheel: About 1.9 meters in diameter

Roof: About 4.5 meters in length, about 3.5 meters in width

Hokodo (body): About 3.5 meters in length, about 3 meters width

Ishimochi (base of the float): Over 6 meters in length

Hayashi Butai (stage for musicians): 8-10 square meters

Hikite: 40-50 people to pull the float

Ondo Gashira: 2 people in charge on the float who control the float (4 people are needed when the float turns a corner)

Yane-gata: 4 people on the roof who make sure to avoid obstacles on the procession route (e.g. electricity wires)

Hayashi-gata: People on the float who play the Gion Bayashi music

Kuruma-gata: People who control the direction of the float in the procession



鉾の例 函谷鉾

Hoko Example:
Kanko Hoko



曳山の例 北観音山

Hikiyama Example:
Kitakannon Yama

かきやま 昇山

各山とも構造、重量に大差なく、その飾り金具、人形の大きさにより多少重量が異なる程度で、大体次の通りです。

「重量」約1.2トン(約320貫)～約1.6トン(約420貫)

「昇手」14人～24人

山の中でも岩戸山、北観音山、南観音山は曳き山で形態は鉾と同じくただ真木が松の木で高さは地上約15mあります。

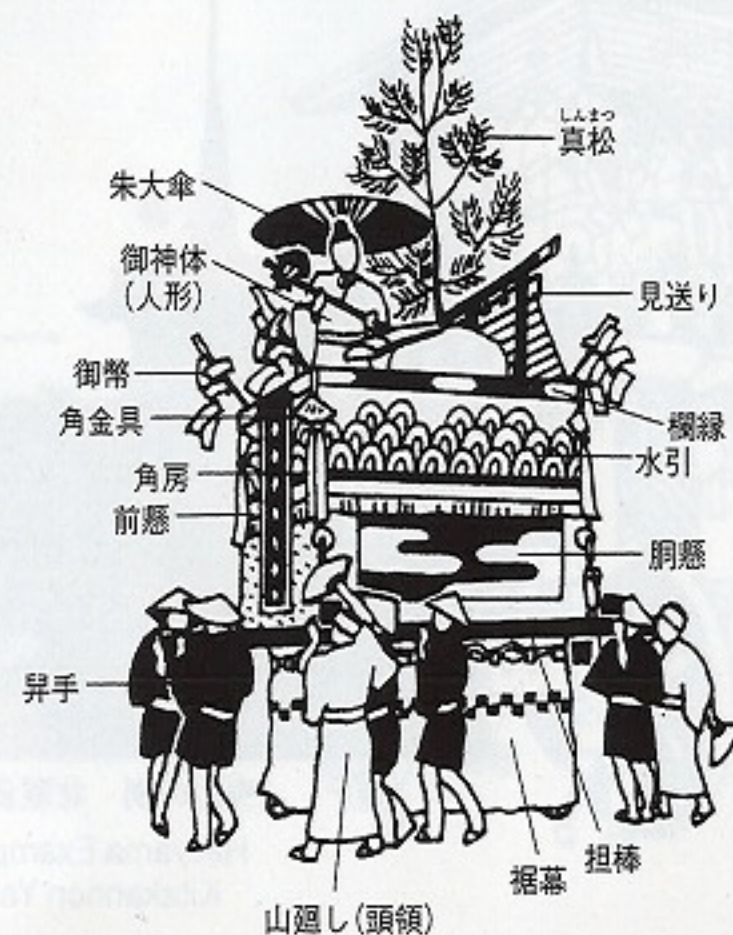
Kaki Yama Float

Each Yama float has a similar structure and weight. Slight weight differences occur depending on the amount and material of the decorations and size of figures.

Weight: About 1.2-1.6 tons

Hikite: 14-24 people who pull the float in the procession

Unlike general Yama floats, the Iwato Yama, Kita Kannon Yama and Minami Kannon Yama have the same structure as the Hoko float (i.e. the floats are pulled by people instead of being carried on the shoulder), and the sacred pine tree on the float reaches to a height of about 15 meters from the ground level.



昇山の例 黒主山

Kakiyama Example:
Kuronushi Yama



昇山の例 郭巨山

Kakiyama Example:
Kakkyo Yama

前祭の山鉾の位置と巡行コース

9:00 は先頭通過予定時刻

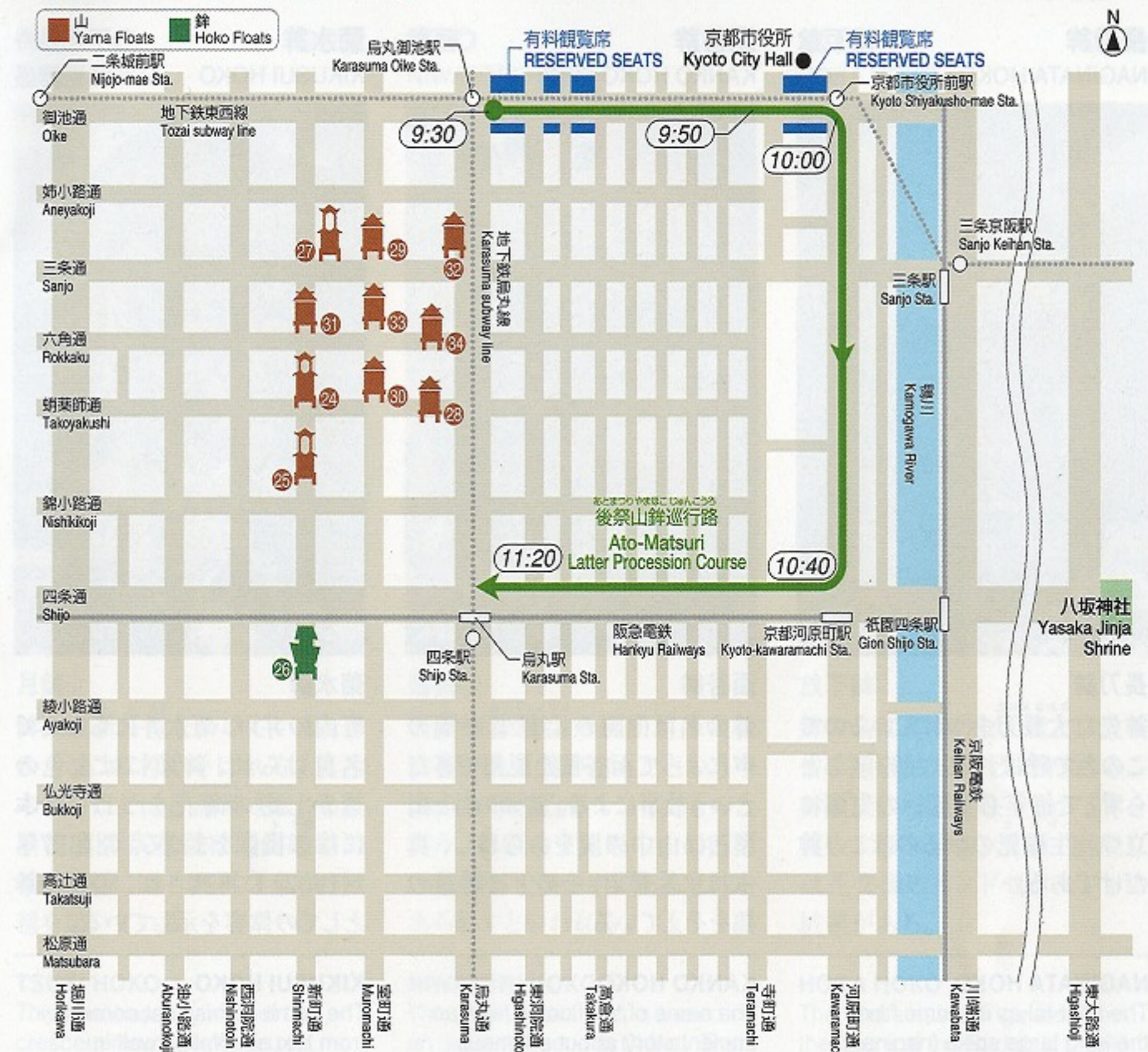


- | | | |
|---------------------|-------------------------|-------------------------|
| ① 長刀鉾 NAGINATA HOKO | ⑨ 山伏山 YAMABUSHI YAMA | ⑰ 伯牙山 HAKUGA YAMA |
| ② 函谷鉾 KANKO HOKO | ⑩ 孟宗山 MOSO YAMA | ⑱ 木賊山 TOKUSA YAMA |
| ③ 菊水鉾 KIKUSUI HOKO | ⑪ 太子山 TAISHI YAMA | ⑲ 霞天神山 ARARETENJIN YAMA |
| ④ 月鉾 TSUKI HOKO | ⑫ 郭巨山 KAKKYO YAMA | ⑳ 白樂天山 HAKURAKUTEN YAMA |
| ⑤ 鶏鉾 NIWATORI HOKO | ⑬ 保昌山 HOSHO YAMA | ㉑ 芦刈山 ASHIKARI YAMA |
| ⑥ 放下鉾 HOKA HOKO | ⑭ 油天神山 ABURATENJIN YAMA | ㉒ 占出山 URADE YAMA |
| ⑦ 岩戸山 IWATO YAMA | ⑮ 四条傘鉾 SHIJOKASA HOKO | ㉓ 綾傘鉾 AYAGASA HOKO |
| ⑧ 船鉾 FUNE HOKO | ⑯ 蟻螂山 TORO YAMA | |

○山鉾建て 7月10日~14日 ○宵山 7月14日~16日 ○巡行 7月17日

後祭の山鉾の位置と巡行コース

9:30 は先頭通過予定時刻



- | | | |
|--------------------------|-----------------------|------------------|
| ㉔ 北観音山 KITAKANNON YAMA | ㉚ 役行者山 ENNOGYOJA YAMA | ㉜ 浄妙山 JOMYO YAMA |
| ㉕ 南観音山 MINAMIKANNON YAMA | ㉛ 鯉山 KOI YAMA | |
| ㉖ 大船鉾 OFUNE HOKO | ㉜ 八幡山 HACHIMAN YAMA | |
| ㉗ 鷹山 TAKA YAMA | ㉝ 鈴鹿山 SUZUKA YAMA | |
| ㉘ 橋弁慶山 HASHIBENKEI YAMA | ㉞ 黒主山 KURONUSHI YAMA | |

○山鉾建て 7月18日~21日 ○宵山 7月21日~23日 ○巡行 7月24日

■ 前祭

長刀鉾
NAGINATA HOKO

◎厄除



長刀鉾
鉾先に大長刀をつけているのでこの名で呼ばれる。古来「くじとらず」で毎年必ず巡行の先頭に立つ。生稚児の乗るのはこの鉾だけである。

NAGINATA HOKO

The float takes its name from the long large spike (naginata) attached to the roof. It is the only float that doesn't join the drawing to decide the order in the procession and always goes first. Also, Naginata Hoko is the only float among the 34 that has a real child riding atop as its sacred symbol (chigo).

函谷鉾
KANKO HOKO

◎厄除



函谷鉾
鉾の名は中国の孟嘗君が鶏の声によって函谷関を脱出できたという故事による。鉾頭の月と山型とは山中の闇をあらわし、真木には孟嘗君、その下に雌雄の鶏をそえている。

KANKO HOKO

The name of the float is from an ancient story about a famous Chinese politician, Moshokun, who lived in the 3rd century B.C. A figure shaped in the moon and mountain on its roof represents darkness in the mountain. The float has the figure of Moshokun as a sacred symbol along with a hen and rooster pair.

菊水鉾
KIKUSUI HOKO◎不老長寿
商売繁盛

菊水鉾
町内の井戸、菊水井にちなんで名付けられ、鉾頭には金色の透かし彫の菊花をつけ、真木には彭祖像をまつる。昭和27年(1952)に再興され、昭和の鉾としての偉容を示している。

KIKUSUI HOKO

The name of this float comes from Kikusui Well, a well in the neighborhood. A golden shiny chrysanthemum flower carving adorns the roof while the legendary hermit, Hoso, is the sacred symbol. The float was restored in 1952 and still retains its form from that time.

月鉾
TSUKI HOKO

◎厄除



月鉾
鉾頭に新月型をつけていることから、この名で呼ばれる。真木のなかほどに月読尊をまつる。屋根裏の草花図は円山応挙の筆。胴懸にはインドやトルコの絨毯を用いている。

TSUKI HOKO

This float has a symbol of the crescent moon (tsuki) on top, hence its name. There is the figure of Tsukiyomi (the Moon deity) in the middle of a sacred pine tree. The interior ceiling bears a painting of flowers and plants by Okyo Maruyama (1733-1795). The body of the float is decorated with beautiful carpets from India and Turkey.

鶏鉾
NIWATORI HOKO

◎厄除



鶏鉾
天下がよく治まり訴訟用の太鼓に苔が生え鶏が宿ったという中国の故事の心をうつしたものである。鉾頭の三角形の中の円形は鶏卵が太鼓の中にある意味をあらわすといわれる。

NIWATORI HOKO

The origin of this float is based on an ancient legend in China. There was a large drum beaten during law cases but it wasn't used for many years while the country enjoyed long-term peace, then, moss grew on it and a hen took up residence – hence, this float represents peacefulness. The symbol atop the float has a round shape in a triangle, representing an egg in the drum.

放下鉾
HOKA HOKO

◎厄除



放下鉾
鉾の名は真木のなかほどに放下僧の像をまつることに由来する。鉾頭は日・月・星の三光が下界を照らす形を示す。前懸・胴懸には花文様のインドやペルシャの絨毯がある。

HOKA HOKO

The float's name originates from the figure of the Buddhist monk named Hoka enshrined in the middle of a sacred pine tree. The symbol on its roof represents rays from the sun, moon and stars that light the world. The body of the float is decorated with carpets from India and Persia bearing delicate flower patterns.

岩戸山
IWATO YAMA

◎開運

船鉾
FUNE HOKO

◎安産

山伏山
YAMABUSHI YAMA

◎雷除
厄除

孟宗山
MOSO YAMA

◎親孝行

太子山
TAISHI YAMA

◎知恵

郭巨山
KAKKYO YAMA

◎金運開運



岩戸山

天岩戸を開いて天照大神の出現させる日本神話から取材している。山とはいえ鉾と同じく車輪をつけた曳山で、鉾柱のかわりに屋根上に真松を立てている。

IWATO YAMA

The origin of this float derives from an ancient Japanese legend that the deity, Amaterasu Omikami, who is believed to have created the country, was born out of a cave. Unlike other Yama floats (i.e. carried on the shoulders of people), this float has wheels, like Hoko floats, and is pulled by people. Since this Yama float doesn't have the place to set the sacred pine tree like a general Hoko float, the tree is directly attached to the roof.

船鉾

神功皇后の説話により鉾全体を船の形にし、舳先に金色の鶴、飛龍文様の舵をつける。鉾の上には皇后と磯良・住吉・鹿島の三神像を安置する。

FUNE HOKO

Based on a legend about Empress Jingu (169-269 A.D.), the float bears the figure of a ship. A golden figure of an imaginary bird is attached to the front of the ship and the helm depicts a traditional flying dragon pattern decoration. There is a figure of the empress as well as three other deities (Isora, Sumiyoshi and Kashima) enshrined on the float.

山伏山

山伏姿の御神体は、八坂の塔が傾いたときに法力によってそれを直したという浄蔵貴所の大峰入りの姿をあらわしている。左手に数珠、右手には斧を持ち、腰に法螺貝をつけている。

YAMABUSHI YAMA

The deity enshrined on this float represents a Buddhist monk who is said to have corrected the leaning Yasaka Pagoda with his mysterious power. The figure represents the time when he is about to enter Mount Omine for severe Buddhist training and he holds a Buddhist rosary in his left hand and an ax in his right as well as having a shell horn on his hip.

孟宗山

筍山ともいい、御神体は病身の母を養う孟宗が、雪の中で筍を掘り当てた姿をあらわしている。唐人衣装に笠をつけ右手に雪をかぶった筍、左手には鋤を肩にかついで立つ。

MOSO YAMA

This float is also known as Takenoko (Bamboo Shoot) Yama. The deity represents a scene in an ancient Chinese legend where the famous scholar, Moso (3rd century), managed to discover a bamboo shoot under the ground which he wished to present to his sick mother. The deity wears a traditional Chinese costume and bears the bamboo shoots covered with snow and a spear on his left shoulder.

太子山

聖徳太子が四天王寺建立にあたり、自ら山中に入って良材を求めたという所伝にもとづき、他の山が真木に松を立てているのに対して、この山は杉を立てている。

TAISHI YAMA

When the imperial prince, Shotoku (574-622 A.D.), commissioned the construction of Shitenno-ji Temple in Osaka, he went into the mountain and collected material for its erection by himself. Based on this story, the float chose cedar as the float's sacred tree instead of pine, which all other floats have.

郭巨山

中国の郭巨釜掘りの故事にちなみ「釜掘り山」ともいわれる。童子を養えなくなった郭巨が鋤を振り降ろすと地中より黄金一釜が出てきた姿をあらわしている。

KAKKYO YAMA

This float is based on an ancient story in China about a man named Kakkyo. Kakkyo was very poor and couldn't afford to feed his family consisting of his wife, child and mother. One day, he decided to abandon the child and dug a hole to bury him. While he was digging the hole, he discovered a pile of gold that enabled him to live happily.

保昌山 ◎縁結び
HOSHIO YAMA



保昌山
丹後守平井保昌と和泉式部の恋物語に取材し、保昌が式部のために紫宸殿の紅梅を手折ってくる姿をあらわしている。故事にちなみ宵山には「縁結び」のお守りが授与される。

HOSHIO YAMA
This float is based on a romance between a court noble man, Yasumasa Hirai (11th century), and a female court servant, Izumi Shikibu. The figure on the float represents the scene where Yasumasa broke a branch of a plum tree from one of the imperial palace buildings to present to her. Based on their love story, an amulet for compatible matchmaking is sold during the Yoi-yama festival nights.

油天神山 ◎学業成就
ABURATENJIN YAMA 厄除



油天神山
古くから町内に祀られていた天神を勧請して作られた山で、油小路にあるところから油天神山とも呼ばれる。正面に朱の鳥居を立て金箔置の社殿には天神像を安置する。

ABURATENJIN YAMA
This float carries the deity that has been worshipped in the local community for many generations. The name of the float comes from the street the shrine is located on: Aburanokoji. A small shrine hall covered with gold foil is set up on the float which is sided by a vermillion shrine gate.

四条傘鉾 ◎招福厄除
SHIJOKASA HOKO



四条傘鉾
織物の垂りなどをつけた傘と棒ふりばやしが巡行する古い鉾の形態である傘鉾の一つで、応仁の乱以前に起源をもち、傘の上には御幣と若松を飾る。昭和60年(1985)に再興された。

SHIJOKASA HOKO
This type of float, which takes the form of a traditional umbrella, is regarded as the old form of the float. The large umbrella is gorgeously decorated with sacred paper pieces and a pine tree on the top while people dressed in traditional costume parade alongside. The origin of this float dates back to the 15th century though it was restored in 1985.

螳螂山 ◎厄除
TORO YAMA



螳螂山
南北朝時代、足利軍に挑んで戦死した四条隆資の戦いぶりが中国の故事「螳螂の斧」のようであったことから、四条家の御所車に螳螂を乗せて巡行したのがはじまりといわれる。

TORO YAMA
In the 14th century, when Japan's political power was divided, there was a war between two political powers. This float was made as a tribute to the samurai named Takasuke Shijo who fought against the Ashikaga army and died in the war. His bravery was associated with one of ancient Chinese stories related to a mantis so that this float has a large mantis puppet on the top.

伯牙山 ◎厄除
HAKUGA YAMA



伯牙山
中国の周時代、琴の名人伯牙とその友人鍾子期との物語による。伯牙が鍾子期の死を聞いて琴の絃を断ったという故事をあらわし、御神体は手に斧を持ち前に琴が置かれている。

HAKUGA YAMA
This float is based on the story about the Chinese harp player, Hakuga, and his friend during the age of China's Zhou dynasty (3rd-11th century B.C.). When the friend passed away, Hakuga was so sad that he decided to stop playing the harp forever. The figure on the float represents the scene in which Hakuga holds an ax in his hand and is about to destroy the harp.

木賊山 ◎迷子(再会)
TOKUSA YAMA



木賊山
謡曲「木賊」に取材し、我が子を人にさらわれて一人信濃国伏屋の里で木賊を刈る翁をあらわしている。御神体は腰に蓑をつけ、左手に木賊、右手に鎌を持つ。

TOKUSA YAMA
The float derives from an old Japanese song called Tokusa. The figure represents a man whose son was kidnapped and lived alone and lonesome in the province of Shinano (present-day Nagano prefecture). He made a living from cutting rush in the area. The figure wears a straw skirt and holds rush in his left hand and a hook in the right.

後祭

霰天神山
ARARETENJIN YAMA ◎雷除
火除



霰天神山
永正年間、京都に大火のあったとき、時ならぬ霰が降り猛火はたちまちに消えたが、そのとき一寸三分の天神像が降ってきたのでこれを祀ったのがこの山の起りであるという。

ARARETENJIN YAMA
In the early 16th century, the city of Kyoto was almost completely burnt to the ground by a large fire. However, non-seasonal hail suddenly fell around the city and quenched the fire. A small figure of Buddha was discovered in the hail and people enshrined it as the precious guardian of the community which is worshipped as the deity of this float.

白楽天山
HAKURAKUTEN YAMA ◎学問成就
厄除



白楽天山
唐の詩人白楽天が道林禪師に仏法の大意を問う姿である。道林禪師は手に数珠と払子を持ち松の枝の上に座し、白楽天は唐冠をかぶり笏を持って立っている。

HAKURAKUTEN YAMA
The figures on this float represent a scene when a Chinese poet, Bai Juyi (772-846) is asking a question about Buddhist philosophy to the Zen Buddhist monk, Dorin (741-824). Dorin sits on the pine tree holding a Buddhist rosary and a horsehair flapper in his hand while Bai Juyi stands wearing a formal Chinese hat and holding a scepter.

芦刈山
ASHIKARI YAMA ◎夫婦和合
(縁結び)



芦刈山
謡曲「芦刈」に基づく。故あって妻と離れて難波の浦で芦を刈る老翁が、やがて妻との再会をはたす夫婦和合の姿をあらわす。

ASHIKARI YAMA
This float is based on the classical Japanese song, "Ashikari." An old man lived alone by the sea cutting rush as he was separated from his wife for some reason but he was able to meet her again. It represents a harmonious relationship between a married couple after a long period of separation.

占出山
URADE YAMA ◎安産



占出山
神功皇后が鮎を釣って戦勝の兆としたという説話による。金の烏帽子の御神体は右手に釣竿、左手に吊りあげた鮎を持つ。

URADE YAMA
This float is based on the story that Empress Jingu (169-269 A.D.) tried fortunetelling to see if she could win in the coming battle and caught a sweet fish as a sign of triumph. The sacred deity on the float wears a long golden hat and has a fishing pole in the right hand and the caught fish in the left.

綾傘鉾
AYAGASA HOKO ◎安産
縁結び



綾傘鉾
山鉾の古い形態を残す傘鉾のひとつ。大きな傘と、赤熊をかぶり棒をもった者が鉦、太鼓、笛にあわせて踊る棒振り囃子の行列。

AYAGASA HOKO
This is one of the floats that still retain the oldest form of an umbrella. A large red umbrella is carried by people accompanied by musicians playing bells, drums and whistles while dancing in long red wigs.

北観音山
KITAKANNON YAMA ◎厄除



北観音山
楊柳観音像と韋駄天立像を安置する曳山。巡行時に柳の枝を差出している。天水引は観音唐草と雲龍図を隔年に使用。

KITAKANNON YAMA
This pull-style float has two deities: Yoryu Kannon and Idate. The float is decorated with willow branches in the procession. Two patterns of tapestry, Kannon Karakusa and Unryu, are used for decorating the pillars in alternate years.

南観音山
MINAMIKANNON YAMA

◎厄除



南観音山
本尊の楊柳観音像は悠然と瞑想をする鎌倉時代の座像。諸病を防ぐといわれ巡行には柳の大枝を差し、四隅に木彫薬玉をつける。

MINAMIKANNON YAMA
The deity enshrined on the float is the statue of a Buddhist monk sitting in meditation from the Kamakura period (1185-1333). There are large willow branches set on the float and wooden medicinal balls on the four corners which are believed to ward off illnesses.

大船鉾
OFUNE HOKO

◎安産
勝運



大船鉾
前祭の船鉾が出陣船鉾と称されるのに対し凱旋船鉾といわれ、幕末以来約150年ぶりの平成26年(2014)復興を果たす。

OFUNE HOKO
The Funne Hoko float in the former procession is regarded as the ship going to a battle while this Ofune Hoko float is the ship returning from the battle. The float was lost and had stopped joining the procession since the late 19th century, but it has been successfully revived from 2014 thanks to the great efforts and wishes of the local community.

鷹山
TAKA YAMA

◎開運招福



鷹山
鷹匠・犬飼・樽負の3体のご神体人形を祀る。文政9年(1826)を最後に巡行への参加を休止し、居祭を続けてきたが、令和4年(2022)約200年ぶりに巡行に復帰。

TAKA YAMA
Three sacred figures are enshrined: Takasho, Inukai and Taruoi. The float stopped participating in the procession in 1826, but returned after an absence of about 200 years.

橋弁慶山
HASHIBENKEI YAMA

◎心体健康



橋弁慶山
鎧姿に大長刀を持つ弁慶と、橋の欄干の擬宝珠の上に足駄で立ち、右手に太刀を持つ牛若丸が五条の大橋で戦う姿をあらわしている。

HASHIBENKEI YAMA
The figures on this float represent two famous historical figures in Japanese history: the Buddhist soldier, Benkei, and his master, Ushiwakamaru. The scene is when Benkei, wearing armor with a large sword in hand, and Ushiwakamaru, with a sword in his right hand, took part in a battle on the Gojo Bridge.

役行者山
ENNOGYOJA YAMA

◎疫除 安産
交通安全 肩こり



役行者山
御神体として役行者と一言主神、葛城神の三体を安置。役行者が一言主神を使って葛城と大峰の間に橋をかけたという伝承による。

ENNOGYOJA YAMA
Three deities are enshrined together on this float: Ennogyoja (Buddhist monk; 634-701), Hitokotonushi and Katsuragi. It is based on the legend that Ennogyoja made a bridge between the mountain of Katsuragi and Omine manipulating Hitokotonushi by his mysterious power.

鯉山
KOI YAMA

◎開運 立身出世
家内安全



鯉山
大きな鯉が跳躍し、龍門の滝を登る鯉の奔放な雄姿をあらわしている。朱塗鳥居を立て、奥の祠に素盞鳴尊を祀る。

KOI YAMA
There is an ancient legend in China that a carp can transform into a powerful dragon if it can swim and climb up a steep and dangerous waterfall. The float design represents this legend and depicts the figure of a brave carp. There is a vermilion lacquered shrine gate and a hall on the float where the deity, Susano-o, is enshrined.

八幡山 ◎子供の健康祈願
HACHIMAN YAMA 夜なき封じ



八幡山
町内に祀られている八幡宮を山の上に勧請したもので、常には町会所の庭にお宮を祀っている。山の上の祠は総金箔の美麗なもの。

HACHIMAN YAMA
People transfer the deity of a local shrine, Hachiman-gu Shrine, to the float during the festival period. The shrine is enshrined and taken care of well in the local community hall in general. The shrine hall attached to the float is shiny and elegant as it is completely covered by real gold leaf.

鈴鹿山 ◎雷除 安産
SUZUKA YAMA



鈴鹿山
伊勢国鈴鹿山で道行く人々を苦しめた悪鬼を退治した鈴鹿権現を、金の烏帽子をかぶり手に大長刀をもつ女人の姿であらわしている。

SUZUKA YAMA
The figure on this float represents the legendary female, Suzuka Gongen, who warded off an evil goblin on Suzuka Mountain in Ise province (present-day Mie prefecture) that was causing suffering to the local people. The figure has a female appearance with a tall gold hat and a large sword in her hand.

黒主山 ◎盗難除
KURONUSHI YAMA



黒主山
謡曲「志賀」にちなみ大伴黒主が桜の花をあおぎながめている姿をあらわす。桜の造花は戸口に挿すと悪事除けになるといわれている。

KURONUSHI YAMA
Based on a classical Japanese song, "Shiga," the figure on the float represents the Heian-period poet, Kuronushi Otomo, as he observes and admires a large cherry tree. It is believed that hanging the cherry blossom decoration from this float at the house entrance can get rid of misfortunes.

浄妙山 ◎勝運
JOMYO YAMA



浄妙山
宇治川の合戦で僧兵浄妙が一番乗りをしようとする、一乗法師がその頭上を飛び越え、先陣をとったという平家物語の一節に取材。

JOMYO YAMA
This float is based on the ancient historical record, the Heike Monogatari. The figures on the float represent the scene when the Buddhist soldier, Jomyo, tried to reach the battle ground via the Ujigawa River, while another Buddhist soldier, Ichirai, jumped over him and arrived first.



しんこうさい かんこうさい
神幸祭(7月17日)・還幸祭(7月24日)

八坂神社の神輿は三基あり、それぞれ六角・四角・八角と特徴ある形をし、主祭神「素戔鳴尊」を奉斎する神輿は六角形で、屋根には鳳凰を頂いています。17日の神幸祭祭典終了後、八坂神社石段下を三基の神輿が出発、氏子地域を各々所定のコースを渡御、四条寺町の御旅所に到着し、24日まで奉安されます。24日、御旅所を三基の神輿が出発、八坂神社まで渡御し帰社後、還幸祭の祭典がおこなわれます。